いりこ文化がつなぐ地域の輪

特集 ❹

（四国中央市）
NPO法人
いりこ倶楽部
山川　かずこ

いりこ倶楽部とは

四国中央市と聞いて何を思い浮かべますか？「紙のまち」を思い浮かべた方が多く、紙産業よりずっと昔からある独特な「いりこ文化」を思い浮かべた方は少ないかもしれません。

平成23年の夏、「この地域に人が興味をもって訪れて楽しんでくれるような事をしたいね」、「何か昔から地元にあるいりこを題材とした活動をしたいね」といった想いより、いりこの問屋さんである後藤さん、割烹料理店の主人で料理人の細川さん、造り酒屋で地酒をつくる会社で働く私の3名から、いりこ倶楽部がスタートしました。

活動を始めて感じたのが、地元四国中央市でも、いりこの産地で、昔からいりこが生活の中で大きな役割を果たしてきたにもかかわらず、いりこの事が普段話題に上りません。若い人達には、いりこの事を言ってもよくわからないようです。しかし、この地のいりこは品質がよく味も風味も逸品です。その事を知って地元の誇りとしてほしいと感じました。

平成25年6月にはNPO法人の認証を受け、法人として設立しました。活動に共感し、会員も13名まで増え、ボランティア的な方も10名程います。それぞれ業種の違うメンバーですが、共通して言えるのが、いりこに関して熱いです。いりこ倶楽部は本業に無理がないように、お互いに気を配りながら運営しています。

のぼりもイベントを盛り上げます

いりことお酒のざんまい日和

結成して最初に取り組んだのが、業態の異なるところをまわって地域を知ってもらう産業ツアーです。旅行会社勤務の会員の方にアドバイスをもらいながら、私達でできるツアーの形を模索しました。見て、食べて、体験がないとお客様を満足させる事が出来ないという事で「いりことお酒のざんまい日和」を企画したのです。そして、大人の修学旅行にして、知識を得るツアーにもしました。内容は川之江城でいりこの漁場の説明や周辺の歴史を学び、いりこの加工場見学、いりこの話や試食といりこ煎餅焼体験、そしていりこ三昧の昼定食、その後に地酒蔵元の蔵見学とお酒の試飲です。その間、いりこ倶楽部のメンバーが付きっきりで案内します。しかも複数で。それがお客様と1対1のお付き合いになり、感動を与えているようです。アンケートの回答率は90％以上で、また参加したいとか、勉強になったというのが、ほとんどです。県内外はもちろんスイス在住の方にもご参加いただきました。最近では赤ちゃん連れのご家族の参加もありましたが、メンバーのサポートで無事に行う事ができ、お客様に喜ばれました。

いりこの加工場見学中

いりこ飯をつくって食べる会

先程もありましたが活動をしていく中で、地元の人がほとんどいりこについて知らないという事がわかりました。これではこの地域へいりこが有名だと思って足を運んでもガッカリさせる事になると思い、地元の方には、昔はいりこを食するだけでなく、いりこを元にした文化がずっとあったという事を再認識してもらい、自信をもっていりこについて語れるようにしなければならないと思いました。そこで地域のいりこ文化に詳しい方々に聞きとりをして知ったいりこ飯の作り方から、現代の生活で利用しやすく、美味しいいりこ飯のレシピを作りました。

このレシピを使い地元公民館で、10～20人の会を始めました。参加者は、いりこ飯の事を親から聞いていたけれど、自分では作ったり食べたりした事のない人達でした。今では、皆で作ったいりこ飯を食べながら、楽しくいりこの話をしたり、世間話をしたりと良いコミュニケーションの場になっています。年に2回を予定して開催していますが、皆さん楽しみに待って下さっています。家に帰って作ったという話も聞いています。このようにしていりこ飯がこの地域の食文化として再定着する事を願っています。

みんなで作ったいりこの料理

親子教室「いりこめしの会」

平成28年の夏休みには念願だった子ども達にいりこと親しんでもらうイベントを実施することが出来ました。親子体験のいりこめしの会で、三島小学校の親子に対して実施しました。いりこ飯を皆で作って食べることはもちろんのこと、いりこの解剖教室も行いました。講師は、大人の修学旅行に以前参加して下さったお客様でした。いりこの解剖教室をしているというお話を聞き、セッティングしたのです。解剖教室では、子どもも大人もとても楽しく勉強しました。いりこ倶楽部として、お付き合いの中から新しい試みができた事は、メンバーにとって充実感を味わえた出来事だったと思います。

慣れない包丁も楽しい体験

いりこの解剖に大人も夢中

これからのいりこ倶楽部

これで地域内外の人、若い世代へといりこを中心としたイベントが揃ってきました。今後は、昔ながらの年中行事などが減ってきている現状を踏まえ、この地域のいりこ文化を次の世代に伝えていくための民俗博物館のようなものを作るのが夢です。昔の事を再現し、それをイベントに出来ればと考えております。四国中央市に人が集うきっかけになるような場所にしたいです。そのためには引き続き昔の事を知っている人たちからの聞き取りをすすめていきます。

また、最近は移住についても考えています。この土地へ移住したい人を満足させるには何をすればよいのか。そういう人達が集まってくると地元の人達も動き出すのではないのか。まずはこの地のいりこ文化に興味をもってもらうこと。紙産業と融和した人々が往来する楽しい街になったらいいなと思います。